

民間教育最高功労賞



伊藤 恭先生
ピグマリオングループ代表

民間教育最高功労賞



飯田 陸三先生
株式会社東進 代表取締役会長

日本民間教育大賞 司会
(株) ヒューマレッジ
相談役 木村 吉宏氏

日本青少年育成協会
会長 増澤 空氏

私塾協同組合連合会
理事長 坂田 義勝氏



全国学習塾協同組合
理事長 森真孝氏



全国学習塾協会
会長 安藤 大作氏



参議院議員
大島 九州男氏

3月18日(月)、東京・神田 学士会館において、「日本民間教育大賞 授賞式・記念講演会パネルディスカッション・祝賀会」が開催され全国から教育関係者が集い盛大に行われた。

日本民間教育大賞は、75歳以上を対象とする「民間教育最高功労賞」と没後10年以内の故人を対象とする「民間教育特別功労賞」の2部門で構成されている。本年度は、2023年11月から2024年1月までの間公募を行い、推薦された方々を対象に9つの団体から構成される選定会議において厳正な審査を行った結果、民間教育最高功労賞に4名、民間教育特別功労賞に1名の受賞者が選出された。

プログラムは、「記念講演会パネルディスカッション」から始まり「これからの民間教育とDX」をテーマに、株式会社SRJ 代表取締役 堀川直人氏がファシリテーターを務め、啓田進学塾グループ 代表 清水貫氏、(株)城南進学研究社 専務取締役執行役員COO 千島克哉氏、(株)メイツ 代表取締役 遠藤尚範氏の3名のパネリストが自社の取り組みや先進的な事例、民間教育の展望について語り合った。

授賞式は、冒頭、この1年間にお亡くなりになった民間教育関係者の御貢献に感謝するとともに御冥福を祈って1分間の黙祷が行われたあと、選定会議を代表して全国学習塾協同組合 森真孝理事長の開会の挨拶で開式。

「民間教育最高功労賞」受賞者は、(株)東進 代表取締役会長 飯田陸三先生、ピグマリオングループ 代表 伊藤恭先生、学研松原教室 指導者 清水逸子先生、(株)ソロモン 学院長 内藤潤司先生の4名、「民間教育特別功労賞」は、教育開発出版(株)前名誉会長 鈴木猛先生が受賞され、学習塾全国連合協議会 山下典男全国会長が表彰状を全日本私塾教育ネットワーク 仲野十和田副会長から表彰盾が贈呈された。大島九州男参議院議員も祝福にかけつけ祝辞を述べた。日本青少年育成協会 増澤空会長の閉会の挨拶で授賞式が滞りなく終了した。

祝賀会は、選定会議を代表して全国学習塾協会 安藤大作会長の開会の挨拶で開始され、多くの参加者から祝辞が述べられ、花束贈呈、三本締めへと進み、私塾協同組合連合会 坂田義勝理事長の挨拶で閉会した。



授賞式 記念講演会 祝賀会



ダイジェスト版



記念講演会



授賞式



祝賀会

日本民間教育大賞 ダイジェスト版動画は上記 QR コードからご覧いただけます。●映像協力 ●(株)フレックス design office[mooV]

日本民間教育大賞選定会議 (構成団体・団体名50音順)

- ・一般社団法人 日本青少年育成協会
- ・学習塾公開企業協議会
- ・公益社団法人 全国学習塾協会
- ・私塾協同組合連合会
- ・全国学習塾協同組合
- ・全日本私塾教育ネットワーク
- ・特定非営利活動法人 学習塾全国連合協議会
- ・特定非営利活動法人 全国教育ボランティアの会
- ・民間教育連盟

顧問 下村博文 衆議院議員
顧問 大島九州男 参議院議員



●略歴
1948年岐阜県生まれ。78年大阪府吹田市に「ピグマリオン」開設。90年「ピグマリオン学習研究所」、2014年「ピグマリオン(株)(現ピグマリオンHD(株))」設立。心と能力とを同時に育てる「ピグマリオン学習メソッド」を開発し、算数オリピック金メダリストお産を輩出。「いのちを育む羊水」といお産のはなし(産学社/18年)ほか著書多数。



●略歴
中部地方一帯の民間教育の発展に寄与した功績
1946年岐阜県生まれ。82年岐阜県可児市に「東進ゼミナール」創立、88年法人化して代表取締役社長に就任。岐阜県東濃地区を中心に多数の校舎を展開。本部の可児校は一時、当時の塾としては日本の1教場1500名に達した。2016年社長を退任して会長就任。現在も講師として

て教壇に立つ。著書に「何のために学ぶか」(しいがる書房/03年)

●授賞理由
岐阜県を中心とする中部地方一帯の民間教育の発展に寄与した功績



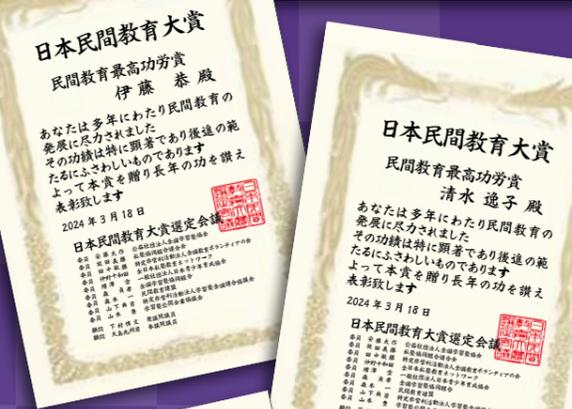
受賞のご感想
まさかこんな素晴らしい賞をいただけると思ってもいませんでしたので、たいへんありがたい限りです。私は今年78歳になります。が、いまでも毎週教壇に立つて、私立中学を受験する生徒たちを指導しています。中学受験部の責任者に「私はいつ辞めた

と考えています。今回は、このような栄えある大きな賞をいただき、本当にありがとうございます。信念を貫いて続けてきた教育を認めていただいたような気がいたします。私も75歳となりましたが、民間教育の中でもう少し頑張りたい、と励ましの賞をいただいたと感じます。

「思考するとは何か」「思考力とは何なのか」を突き詰めて、認識からほじめる思考というものを皆さまにお示ししたいという決意を新たに

とを期待しています。本日は本当に素敵な刺激を受けました。誠にありがとうございました。

しております。この賞を機に、さらに活動に力を注いでまいります。



民間教育特別功労賞

鈴木 猛 先生

教育開発出版株式会社 前名誉会長



● 略歴 ●
1935年愛知県生まれ。1969年、草創期にあった全国の学習塾らびに学校向け教材の開発・出版・販売を主業とする「(株)教育開発研究所」を設立、代表取締役社長に就任。「企業は人なり」の信念のもと同社を業界のリーディングカンパニーに。92年に社名を教育開発出版(株)に変更。2001年、代表取締役役退任と同時に名誉会長に就任。16年没。

● 授賞理由 ●
学習塾向けの専用教材の開発・出版・直販を通じて民間教育の拡大発展に寄与した功績

受賞のご感想
糸井 幸男氏
教育開発出版株式会社代表取締役社長
業は1969年、鈴木が34歳の時でした。1976年には業界初・日本初・世界初の学習塾専用教材「新中学問題集」が登場しました。学校よりクオリティの高い授業を

目指して、本格的な出版物としてこれを世に送り出したのです。塾業界の発展とともに教育開発出版は発展しました。しかし2001年、66歳の時に鈴木は極めて深く、社長の座を次世代に委ねて退任しました。創業から2016年に亡くなるまでの48年間、まさに疾風のごとく塾業界を駆け抜けた人生でした。

鈴木は新しいビジネスを創造して提案することが好きな人間で、80年代には小学生のための英検の教材を生み出し、DX化もいち早く捉えていました。そのDNAはわれわれの中に息づ

いています。これからも新しいシス
テムや教材を開発し、先生方と連携
して塾業界の活性化を担っていき
いと考えています。



民間教育最高功労賞

内藤 潤司 先生

株式会社ワロモン 学院長



● 略歴 ●
1948年愛媛県生まれ。76年埼玉県狭山市に「ワロモン総合学院」を創設。集団指導、個別指導、独自教材の開発。定期的な学院長面談、保護者教育相談等々を通じて地域の子どもの学力増進に尽力。併せて公益社団法人全国学習協会常任理事、全国学習塾協同組合副理事長、NPO学習塾全国連合協議会東ブロック理事長等を歴任。

● 授賞理由 ●
埼玉県狭山市を中心とする地域の民間教育の発展に寄与するとともに、民間教育事業者間の連携の強化に寄与した功績

受賞のご感想
私は1976年に学習塾を開設しました。20年目の頃、卒業生に「子どもの面倒を見てほしい」と相談され、その感謝の気持ちを「2世代割引」として表現しました。業界初の試みであったと自負しております。ずっと私の心の中にあつたのは人数との戦いでした。充実した受験指導をするためには、クラスの数や学年全体の適正な人数が重要です。この方針を守りながら、理想の形

を作り上げてきました。そして、創業13年目に自社ビルの本館を建てました。それから新館、さらに4年前には高校生専用の自習棟を建設しました。

いま、次男が私の後を継いでくれることは嬉しい限りです。コロナ禍で二斉休校になった際、彼はその3

日後にはオンライン授業の開始を決断しました。老兵となった私には、到底できないことです。受賞の誉をいただいたことに心より感謝申し上げます。



民間教育最高功労賞

清水 逸子 先生

学研松原教室 指導者



● 略歴 ●
1939年栃木県生まれ。80年、学研教室第1期生として宇都宮市に「学研松原教室」を開室。学研教室の理念「子どもたちに学ぶ喜び・自信・生きる力を」に基づき、幼児から中学生の学習指導と非認知能力の育成に努め、子どもたちの個性や才能を引き出し、心も育てる教室運営で「地域教育のプラットフォーム」として信頼を得ている。

● 授賞理由 ●
学習塾の原点ともいえるべき寺子屋式教室運営を通じて地域の子どもの学力水準の向上に寄与した功績

受賞のご感想
学研教室は1980年に誕生し、45周年を迎えます。私は1980年の開設当初から、地域のコミュニティ広場を目標として、子どもたちの学びを支え、居場所になるべく、一切手を抜かず指導にあたっていました。

教室は宇都宮市内でも特に教育熱の高い地域で、おかげさまで口コミで優秀な生徒が通っています。私の夫が茶道に精通していたことから、日本の文化を継承したいとの思いで、いまでも10畳の部屋で畳に座って学習するスタイルを貫いています。

私は子どもたちに「大きくなら何になりたいの？」と常に問いかけています。さまざまな分野で活躍し、豊かな人生を歩む子どもたちが、自宅の小さな一室から育っていくことは私

の大きな誇りであり喜びです。私自身も謙虚に学び、研鑽しながら、これからも一人でも多くの子どもと向き合っていきたいと思っています。

